

学会活動報告

○日本仏教学会

昭和六十年年度学術大会は、十月四日(金)・五日(土)の両日、本学において開催され、つつがなく終了した。今年度の共同研究課題は「菩薩観」で、本学から高橋堯昭・中條晝秀の両氏が発表を行なった。なお大会日程は左の通りである。

大会日程

一、受 付 十月四日(金) 正午から

一、研究発表 十月四日(金)・五日(土)の二日間

(二・四階の合併教室)

一、総 会 十月四日(金) 十六時一〇分 (大講堂)

総会終了後記念写真撮影

一、懇親会 十月四日(金) 十七時三〇分 (下部温泉・下部ホテル)

一、理事会 十月四日(金) 十一時三〇分 (会議室)

十月五日(土) 十二時一〇分 (会議室)

▼十月四日(金)

・十三時～十五時五五分

第一会場(四階・合併教室)

1 中国民衆の菩薩観——普庵印禪の場合——

永井政之
(駒沢大学)

2 本生菩薩の大乗化

杉本卓洲
(東北大学)

3 ガンダーラ彫刻にあらわれた菩薩観

高橋堯昭
(身延山短期大学)

4 Kulaの概念について

今西順吉
(北海道大学)

5 菩薩としてのガンデー

古瀬恒介
(名古屋大学)

6 法華経における菩薩観

勝呂信静
(立正大学)

7 如来蔵思想の菩薩論

高崎直道
(東京大学)

第二会場(二階・合併教室)

1 在家菩薩の戒——『優婆塞戒経』を中心に——

龍口明生
(龍谷大学)

2 親鸞における菩薩の概念

武田龍精
(龍谷大学)

3 親鸞における菩薩道

幡谷明
(大谷大学)

4 真宗に於ける菩薩観

徳永大信
(九州龍谷短期大学)

5 中国浄土教における菩薩観

成瀬隆純
(早稲田大学)

6 七波羅蜜について

徳岡 亮英
(西山短期大学)

7 わが国における菩薩号の下賜について

奈良 弘元
(日本大学)

▼十月五日(土)

・十時〜十二時〇五分

第一会場(四階・合併教室)

1 「初会金剛頂経」の菩薩観

乾 仁志
(高野山大学)

2 華嚴経の菩薩観——特に普賢・文殊・弥勒の三聖の相互関係について——

中 村 蕉
(同朋大学)

3 阿毘達磨雜集論における菩薩思想

篠 田 正成
(九州大学)

4 ナーガールジュナの菩薩観

爪生津 隆真
(京都女子学園)

5 中観派に於ける菩薩観

丹 治 昭義
(京都大学)

第二会場(二階・合併教室)

1 天台の菩薩観——特に戒学を中心として——

多 田 孝文
(大正大学)

2 天台智頭の菩薩観

鷺 阪 宗演
(花園大学)

3 中世仏教における菩薩思想——特に地藏菩薩信仰を中心と

して——

4 伝教大師の撰述からみた菩薩観

石 川 力山
(駒沢大学)

5 中国に於ける大乘菩薩行としての五辛禁忌の成立について

渡 辺 守 願
(叡山学院)

・十三時三〇分〜十六時

第一会場(四階・合併教室)

1 菩薩の最後心について

諏 訪 義 純
(愛知学院大学)

2 「般若経」に於ける菩薩の智慧

生 井 衛
(高野山大学)

3 仏典の比喻表現における菩薩観

真 田 康 道
(仏教大学)

4 ラダック仏教における菩薩信仰について

森 章 司
(東洋大学)

5 菩薩の因について——チャンドラ・キールティの菩薩観——

矢 崎 正 見
(文教大学女子短期大学部)

6 発菩提心とその背景

小 川 一 乗
(大谷大学)

第二会場(二階・合併教室)

1 自分行他分行

山 口 恵 照
(大阪大学)

2 浄土教における菩薩観

古 泉 圓 順
(IBU)

3 「徹選択集」における菩薩観

高橋弘次
(仏教大学)

4 真言密教の菩薩観

北條賢三
(大正大学)

5 日蓮と常不軽菩薩

中條 晧 秀
(身延山短期大学)

6 日蓮聖人の「法華経行者」意識と「地涌菩薩」認識

渡 辺 宝 陽
(立正大学)

○日蓮宗教学研究発表大会

第三十八回日蓮宗教学研究発表大会は、十月三十一日(木)

・十一月一日(金)の両日、本学において開催された。本学から奥野本洋・町田是正・高橋鶴昭・若杉見竜・林是晋・上田本昌の六氏が発表を行なった。なお大会役員・発表者及びテーマは左のごとくである。

大会役員

総 裁	身延山久遠寺法主	岩 間 日 勇
顧問	身延山短期大学長	望 月 真 澄
顧問	日蓮宗々務総長	上 田 本 幸
顧問	立正大学々長	関 戸 法 夫
顧問	立正大学々園理専長	中 村 瑞 隆
顧問	立正大学々園理専長	山 内 堯 文
顧問	身延山短期大学々監	望 月 一 靖
顧問	同学園理事専長	宮 崎 英 修
顧問	身延山短期大学々頭	日 比 宜 正
顧問	同仏教文化研究所長	宮 崎 英 修
副会長	日蓮宗教務部長	日 比 宜 正

副会長 立正大学仏教学部部長 渡 辺 宝 陽

副会長 立正大学 日蓮宗研究専長 浅 井 円 道

準備委員長 身延山短期大学 仏教文化研究所主任 中 條 晧 秀

プログラム

十月三十一日(木) 午前(九時より十二時半)

一、開 会 式(大講堂)

一、法味言上 岩 間 日 勇

一、換 拶 長 瀬 貫 公

一、換 拶 中 村 瑞 隆

一、換 拶 望 月 一 靖

一、授賞式 宮 崎 英 修

一、研究発表(二階合併教室)

日蓮聖人の釈尊観 菊 田 泰 孝

日蓮宗寺院資料の管理に関する二、三の問題 望 月 真 澄

心性院日蓮の『立正安国論私記』についての一考察 上 田 本 幸

日蓮聖人花押の研究 関 戸 法 夫

日蓮聖人の法華経弘通の特質 龍 門 義 通

「譬喩」を視点として—— 寺 尾 英 智

日蓮聖人自筆書状の料紙使用法について

最澄の仏陀観に関する一考察 高佐宜長

日蓮聖人の靈山往詣論についての一考察

都守基一

日蓮聖人の御墓考

宗教倫理の実践と信・行・知 町田是正

(記念撮影)

午後部(午後一時半より)

十如是考 世羅治夫

瑜伽論菩薩地に見られる菩薩について 清水海隆

本門戒壇建立期と建立場所の解明 早瀬公人

法華経における「開会思想」成立の仏教文化史的意義

(その二)——第二類成立の主要因を探究——

林円修

日蓮宗の三権分立について 竹内成行

金綱集と真問起請文——中山門流と日什上人——

山口晃一

室町時代京都日蓮教団寺院の存在形態に関する一考察

糸久宝賢

日蓮宗の江戸諸講中について

——堀之内妙法寺史料を中心として——

北村行遠

「地涌」の一試論

『京都十六本山会合摺類』について 高橋苑昭

中尾苑

天台著述における「章安筆録」の意味

——三論吉蔵との関係をめぐって——

河村孝照

十一月一日(金)午前部(午前九時より)

中観思想に於ける対論(一)

天台教学に於ける仏種の下種と仏性

日蓮聖人の「提婆達多」解釈について 原慎定

下種に関する一考察 平島盛雄

身・語・意の三業について(二) 池上和夫

近代日蓮主義研究(二) 浜島典彦

「身池対論」前後に於ける確執

——「大田区史」資料編寺社1・2を中心として——

藤崎英正

日蓮聖人の師、俊範の未紹介資料について

窪田哲正

近世身延山久遠寺の伽藍について

井上博文

総と別の関係の一考察(二)——五重玄との関連において——

芹沢泰謙

塵沙の惑について

若杉見龍

現代宗学の課題——長谷川現宗研所長の所見に答えて——

安永辨哲

午後部(午後一時より)
日蓮聖人の『依正不二』観について 松脇行真
註法華経における引用経論についての一考察

今井 真孝
日蓮聖人における一聞提成仏と仏性について

関戸 堯海
身延門流と関東天台について

林 是晋
開目抄における唯識学批判について

岩田 諦静
日蓮聖人における一念三千名目出処について

八品の世界
宗祖の身延永住について

◆図書館だより

本年も図書館本運動に同窓生の各聖より御高配と御高志を賜
りましたこと、心より厚くお礼申し上げます。図書館本運動
がこの様に盛りあがっている折、本学園の図書館建設の設計・
管理が堀池秀人都市・建築研究所に決定いたしましたことを報
告申し上げます。これからも何卒、皆様様方の御協力をよろし
く切に御願ひ申し上げます。

図書館寄贈者芳名

- 1、身延山久遠寺 『日蓮聖人遺文辞典』歴史篇等二六冊
- 2、故望月日滋法主宛下 『敦煌宝蔵』一三〇巻
故竹下日康法主宛下

3、灘上恵教師 『年号読方考証稿』等二冊
4、児島鍊戒師 『マグローヒル科学技術用語大辞典』等
二六冊

5、大石要英師 『国訳一切経』一〇一冊

6、内野光徳師 『日蓮聖人全影』等三〇〇冊

7、奥村義春師 『海の牙』等四九冊

8、本納寺殿 『日蓮聖人と法華経』等二冊

9、久保日参師 『増補小栗栖檀林』一冊

10、岡元鍊城師 『立正山本妙寺史』一冊

11、尾崎文英師 『尽日抄』第四詩歌集一冊

12、高田良信師 『補導成唯識論』全十巻等六冊

13、日蓮宗豊能青年会 『日蓮宗豊能寺院名鑑』一冊

14、妹尾啓司様 『近世の対外関係と日本文化』一冊

15、加藤忠正様 『天淵詩統稿』一冊

16、佐野歌子様 『観心本尊鈔提要』等二二冊

◆同窓会本部だより◆

(A)全国総会身延大会の開催

三年毎に開催されている全国総会が六十年十月三十日、本学を会場として左記の日程で行われた。

午前十一時より全国支部長会議。

午後一時より仏故者追悼法要を仏殿にて虔修（大導師岩間法主日勇猥下・協導師望月一靖総務猥下・宮崎英修学頭・松井大周同窓会長・岩田日成副会長）

午後二時より三時三〇分まで総会（桑名貞正・進藤義遠両先生司会進行）

(1) 支題三唱（会長発音）・(2) 閉会のことば（岩田日成副会長）・(3) 挨拶・会長松井大周師・学監望月一靖理事長・学頭宮崎英修先生・(4) 感謝状贈呈（図書館建設資金並に図書寄贈など百万円以上寄付者―里見あや殿・谷川寛徳殿・大石要英殿・岩田日成殿・内野光徳殿・原光可殿・灘上恵教殿・新川日見殿）・(5) 永年勲統教職員表彰（五十年表彰林是幹先生・四十年表彰秋山智孝先生・三十年表彰望月海淑先生・町田是正先生・上田本昌先生・高橋堯昭先生・二十年表彰山田是明先生・十年表彰今村良枝課長・佐野やよび主事）・(6) 協議事項（イ庶務報告を上田本昌幹事よりロ会計報告を町田是正幹事よりハ監査報告を清水本成監事よりフ々報告・ニ各支部長―九州地区・青森県・新潟県・神奈川県・東京都―現況報告・ホ学園図書館建設の件・ヘその他として年度会費徴取のこと）・(7) 閉会のことば（中屋教海副会長）・(8) 支題三唱・引き続いて懇親パーティーを一階会議室にて催し、同窓（祖山

学院・専門学校・短大・高校卒業諸聖）各位には旧交を暖め和やかな少時を過ごした。

(B) 図書館建設について（進捗報告）

学園図書館の建築は、吾等同窓会十有余年の悲願である。昨年「建設資金勸募趣意書」を支部長各位を介して、全国同窓各聖に対して呼びかけ協力をお願いしましたところ、六十年十二月三十日現在、同窓各聖からの寄付金は、金参千三百五十万円に達しています。過る十月三十日同窓会総会の協議に於て、同窓生の資金勸募運動は、期間を限ることなく、図書館が竣工されるまで続けよう、と賛同決議されました。

その後、岩間法主猥下・望月学監猥下の建設への積極的御意志を体して、本山枢要部（本山各部長）と学園側との数次に亘る談話が重ねられ、六十年十一月二十六日、本山水鳴楼に於て、法主猥下、総務猥下、望月庶務部長、中村経理部長、宮崎学頭、秋山校長、町田図書館長、そして設計監理者の堀池秀人氏（堀池都市建築研究所顧問、東京大学・カリフォルニア大学各講師）と協議談合して、建設場所（旧東溪寮跡地）を实地調査し、工費概算六億円をもって着工することを決したのである。本年三月中旬、堀池設計事務所による青写真設計図面の完成を待って、六月乃至七月に起工する歩びとなっている。関係者一同その着工がまたれる所である。

（文責 町田）